



人生・農業 リセット再出発!

RESET RESET RESET 第16回



元国際線航空会社乗務員・作家
黒木安馬

1950年熊本県生まれ。高校在学中にAFS奨学生で米国留学後、早稲田大学を経て日本航空に入社。国際線乗務員として業界の常識を破る「カラオケ・フライト」を企画して計7便飛ばし、後に北島三郎らによる「世界初1万メートル上空機上コンサート」も実現させた。自宅は28歳の時に1300坪の土地を開墾して2年半がかりでプールを手作りし、テニスコート、コンサートホールも造る。自宅ステージでは加藤登紀子、山下洋輪、坂田明、尾崎紀世彦など多くのライブやピカソ展を企画し、地域活性化触発運動「グループ・ザ・田舎のちあ」を主宰。多くの実体験に基づいた人生成功哲学の講演や著書は大手企業でも人気を博している。昨年一杯で航空を退職して(株)日本成功学会を設立、代表取締役社長として活躍中。著書に「面白くなくちゃ人生じゃない!」(KKロングセラーズ)、「出過ぎる杭は打ちにくい」(ワニブックス)、「リセット人生再起動マニュアル」(ワニブックス)、「小説・球磨川」(ワニブックス上下巻)がある。E-mail: kuroki-yasuma@love.biglobe.ne.jp

CARPE DIEM (カルペ・デイエム) と言うラテン語がある。「一日の華を摘め」との意味である。一日一日を人生の花畑の花と見立てて、それを摘んでいく。

映画「風と共に去りぬ」で、最後のセリフに出てくる「明日は明日の風が吹く(Tomorrow is another day)」はどん底から這い上がる勇気をもたらしてくれるが、昨今「明日があるさ」などと若い者が歌っているのは、未来に希望を抱いているように書いて実は現実逃避にしか聞こえない悲しさがある。先日、大前研一氏と対談した。「その

うちに…というのは人生の禁句。やりたいことがあるなら先延ばししてはいけない。やりたい時がすべき時。自分の人生を思うように生きて、死ぬ瞬間に自分の人生は面白かった、心から満足していると思えること。失敗は多かっただけで、自分で決めたことだと最後に言えるように活きたい…」とは、世界的に評価の高い氏の言葉である。要するに、今の自分と握手ができるか? なのである。

タイガー・ウッズのプレーを観ていると、必ずカップを越すような強い勢いのパットで打っている。外すと怪我

も大きい。カップの手前で止まるような球は絶対に入ることはない。目的を超えるような勢いで生きていかなければ絶対にそこに到達することはない。ましてや人生は失敗してもナンボのモン。そして、機内で会ったナイキの創業者フィル・ナイトはこう言う、「人生で最後の一回だけ成功すればいい。それまでトライし続ける過程が重要だ」と。

人生成功者になりたかったら、成功者に会え!の合言葉で創設した【株式会社・日本成功学会】が想像以上の好反響で動き始めた。世界を俯瞰してみると判るが、わが国のどのマスコミも不況を喧伝しているが、その根本は今日の日本人の心の不況にある。人類誕生から400万年もかけて増え続けた10年前の世界人口は50億人。がそれからわずか10年間で12億人も増えて、62億人になっているという恐ろしい人口爆発が起きている。

その中で、後にも先にもたった一回こっきりの自分の人生をどのように悔いなく生きて行くのか…。一日の華を摘み取る楽しみを先延ばしにしていると、人生の上り坂、下り坂の次に、マサカと言う終焉の坂が待っているのである。